

(1)令和5年度、令和6年度の管路更新について

令和5年度決算の管路更新率が0.45%と低かった要因分析 (現状)

- ①予算として計上していた分は、下水道整備に伴う事業団委託を除いたら総延長5,900m(管路更新率:0.63%)であった。
- ②工事完了は、総延長4,227mであった。
- ③工事発注したが令和6年度年度に繰越した延長は、520mであった。

(要因分析)

①外部要因

- ・下水道事業の事業団への委託において、令和5年度の引き渡しがなかったため。例年であれば2 km前後の引き渡しがあるので、管路更新率は、0.8%を超える見込みであった。
- ・駅西地区の予定されていた工事が発注に至らなかった。

②内部要因

- ・予算計上の時点で、管路更新率が1%を超える計画ではなかった。水道施設の更新費用が多額となったために、予算の上限を経営戦略の数値に沿っていたため、管路の更新費用を低く抑えた予算となった。
- ・予算上、工事箇所数が少なく計上されたため、管路延長が伸びなかった。

- ①予算:総延長5,400m
- ②令和5年度からの繰越 総延長520m
- ③工事完了 総延長8,207.2m (うち下水道事業団委託5,214.6m)
- 管路更新率:0.88%
- ④令和7年度へ繰越延長3,849.8m